

青土社図書目録

東京都千代田区西神田1-3-13(291)9831



いま、ぼくらの周囲には、さまざまな価値観、さまざまな真理像が、バラバラな私たちで、脈絡もなく併存しあっている。

真理が真理と傷つけあうこの不幸な時代をわれわれは手探りで歩いている。

小社は、この世界の夜の時代に灯をともす、現代の指導的な思想家の重要著作を収める「現代思想叢書」、ならびにそれら鋭い現代思想家の創造的営為を問題論的に研究紹介する「現代思想全書」を、本年三月より併行して刊行する。

現代思想五月号予告

特集 ジャン・ジャック・ルソー

●翻訳

ジャン・スタロバンスキー
十八世紀における起源の探求

ミシェル・フーコー

『ルソー、ジャン・ジャックを裁く』序文

マルセル・レイモン

『告白』の問題

●徹底討議

平岡昇・中村雄一郎『ルソーの思想と現代』

●論文・ルソー研究

原好男『ルソー思想と『エミール』の位置』

坂部恵『ルソーとカント』

中川久定『幸福な状態』の意識構造と西田哲学における『純粹経験』

●ルソーとドイツ哲学

上妻精『ヘーゲルにおける疎外とルソーにおける疎外』

生松敏三『カッシーラーの（ルソー問題）の意味』

●ルソーと音楽

園部三郎『ルソーと歌曲』

海老沢敏『ルソーの音楽思想』

●ルソーと日本文学

吉田精一『ルソーと島崎藤村』

岡三郎『ルソーと夏目漱石』

●ルソーと言語の問題

浜名優美『十八世紀言語論とルソー』

鈴木宏『ルソーと現代の言語論』

●ルソー入門

月花武『ルソーの生涯と思想』



編集後記

■アナキズムの本質的な理論について語ることは、自らの姿を全てのものに委ねることのできる力と、未来を誤らず予言する力とをもったプロテウスと格闘するにひとしい、とワドコックはいう。じつさいアナキズムは「ここではしばしば強い地下の流れとなり、かしこでは渦まき淵に集まり……社会構造における欠陥が流れるみちをつけるような場所では、再び現われる」のだ（ウドコック『アナキズム』）。たとえば数年前、新しいラディカリズムの運動の只中に、アナキズムは豊かに思っていた。いま、地下深く身をひそめてしまったように思われるプロテウスを、捕えることはもはやできないのだろうか。

■プロテウスの一つの姿シニエールナーは、「私のザッヘを私の上に据え」た。フォイエールバッハのいう自己を超える普遍的人間さえ、それが、八神Vがそうであるように

「精神」に立脚したものが描いた幻像であるかぎり斥けられる必要があった。「精神」の虚偽を暴くエゴイストは、国家、神、法、秩序を破壊しつくさずにはいない。そしてシニエールナーは「唯一者と唯一者との間に決定的な対立」とその対立の不完全な消失Vとが同時に成り立つような結合を国家にとつて代りさせたのだ。もとよりシニエールナーが対峙していたものは、「これまで人類の全イデアリスが今まさにニヒリズムに転換しようとしている」ことを見ぬいたニヒエールナーにおける問題とひとつのものであり、それはまた思想史の巨きなパースペクティブの内ではくらくら置かれていた状況の核心をなすものにほかならない。蘇えれ、プロテウス。

■八われらの同時代者ニヒエール（六月号特集予定）に進む前に、その自然概念においてアナキズムを一時照らし、スタロバンスキーやレヴィ・ストロースによって今日呼びもどされつつあるルソーをめぐってみる。（N）

現代思想 四月号 第二巻四号

発行日 一九七四年四月一日

編集人 中野幹隆

発行人 清水康雄

発行所 青土社 千代田区西神田一三三三山田ビル

電話 291 九八三

印刷所 秀好堂 千代田区神田錦町三二六

製本所 岩佐製本所 文京区小石川四二二二

定価 一五八〇円